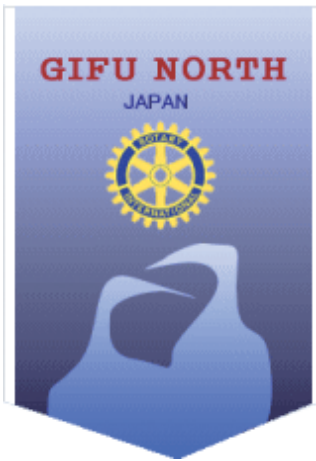


岐阜北週報



12月

家族月間

<input type="checkbox"/> 題 字	国井省二	<input type="checkbox"/> 会 長	国井 省二	
<input type="checkbox"/> 例 会	毎週水曜	<input type="checkbox"/> 副会長	服部洋一朗	2009-2010
<input type="checkbox"/> 会 場	岐阜都ホテル	<input type="checkbox"/> 幹 事	波多野光裕	No.1334
		会報委員長	片桐順一郎	09.12.19 発行

前回の記録

第 1333 回例会 12/16 (水)
年次総会 (次期役員理事選出)
担当 会長・幹事

本日の予定

第 1334 回例会 12/19 (土)
繰上げ
クリスマス家族会
担当 親睦交流委員会

次回の予定

第 1335 回例会 1/6 (水)
慶祝行事・新年互例会
担当 会長・幹事・SAA

会長挨拶 【国井 省二 会長】

皆様、こんにちは。

本日は、定時総会です。

次年度、岡田エレクトの組織を承認する大事な総会です。

私自身、次年度にバトンを渡す最初の行事です。皆様の慎重審議を宜しくお願い致します。

また、19日は当クラブ恒例のクリスマス家族会です。原尾委員長をはじめとする、親睦委員会の方々が準備に入って、お世話してもらっています。

年末が近づいてまいりました。ここで少しお話させていただきます。

今日は、来年のことを言うとなぜ鬼が笑うのかと言う事を述べさせていただきます。

「来年のことをいえば鬼が笑う」ということわざは、将来のことは予想しがたいのをたどたもです。だが、どうして鬼なのだろう。

鬼は想像上の怪物だが、昔の日本人にとっては人間の生活を脅かす恐ろしい存在でした。頑健で、奇怪な顔をしており、性格は冷酷無比。それが一般的なイメージです。その鬼から笑顔など想像できません。つまり、来年のことを、将来のことを予想するのがいかに愚かなことであるか、その愚かさを浮き彫りにするために、普段笑うことがない鬼に笑わせたのです。

以上を持ちまして、本日の会長挨拶とさせていただきます。

年次総会 (次期役員理事選出)

【役員】

会長 岡田忍
副会長 波多野光裕
会長ILKト 塚原進
幹事 谷田育子
会計 原尾勝
S・A・A 永瀬章

【理事】

次期幹事 松野秀計
職業奉仕 北川忠雄
社会奉仕 片桐順一郎
国際奉仕 小森保敏
無任理事 白木昭三
" 若山和正
" 国井省二

ニコニコ BOX (敬称略)

小島正三：川島先生をお迎えして
山口八郎：同文

第5回ゴルフコンペ 成績表

平成21年12月17日(木)

場 所 各務原カントリー倶楽部

優 勝 西垣 康紀

準優勝 片桐順一郎

三 位 安藤 武司

ベスグロ 西垣 康紀

ニアピン 若山和正・服部洋一朗・岡田一二三

ドラゴン 西垣康紀・永瀬章

大波小波 若山和正

平和賞 永瀬章

出席報告

会員数：36名

出席者：26名

出席率：26/36 72.22%

欠席者：10名 (出席免除 4名 81.25%)

来訪者：岐阜東南 RC 川島和男様

若山 IM 実行委員長

R. I 第 2630 地区 岐阜 A 地区
 ガバナー公式訪問
 I・M 合同例会（素案）について
 開催日 平成 22 年 7 月 25 日（日）
 場 所 岐阜都ホテル 2 階
 ホスト 岐阜北ロータリークラブ
 役員名簿について承認

IM 実行委員会

第 IA 分区 ガバナー補佐 森本時夫
 会 長 岡田 忍
 幹 事 谷田育子

実行委員会

実行委員長 若山和正
 副実行委員長 相宮貞雄
 副実行委員長 岡川 紘

相談役

苅谷二郎（総務・接待） 郷 昇（進行）
 白木昭三（救護・記録） 久世 亘（登録・接待）
 北川忠雄（会場） 竹村博之（交通）
 川島明雄（総務）

総務統括

委員会	委員長	副委員長	委員
総 務	服部洋一郎	原尾 勝	小泉宣昭
登 録	塚原 進	西垣康紀	小野木八千代
接 待	小島 正三	小森保敏	
会 計	波多野光裕		

運営統括

委員会	委員長	副委員長	委員
会 場	山口 八郎	長野 鉄司	松野 秀計
進 行	永瀬 章	国井 省二	神谷 良子
記 録	片桐順一郎	岡田一二三	安藤 武司
交 通	陰田正男	小椋 功	水川 渥
救 護	白木 昭三	河村 訓陸	谷田育子

委員会報告

親睦交流委員 原尾委員長

* 19 日（土）クリスマス家族会多くの参加を
 * I. G. M 報告 RC 情報委員 北川忠雄会員
 開催日 平成 21 年 11 月 27 日（金）

テーマ

国際奉仕について リーダー神谷会員
 米山奨学 RC 財団について リーダー久世会員
 出席者 北川・小泉・神谷・久世・岡川・川島
 河村・片桐

場所 岐阜都ホテル

I. G. M ミーティング内容

1. テーマその 1 国際奉仕について

リーダーより今年度は青少年の派遣も受入れもない旨は発表。一方国際奉仕委員会の任務として W. C. S があり今まで他クラブ等実施の事例を参考に組み組んでゆく必要があるとの意見があった。

2. テーマその 2 R 財団米山奨学について

リーダーより前年奨学援助をした戒海蘭学生について本年更に一年間会員の善意で継続できたことについて感謝の旨の言があった。

R 財団では国際奨学生として 2007 ~ 2008 年にイギリスの大学に入学した伊原優子学生については所定の留学が終了したにも拘らず未だ何等連絡もないことにこのまま放置してよいのかとの数人からの意見が出た。

3. その他全般について

増強についてはクラブ会員が一丸になってその加入勧奨につとめることは当然ながら、若い新会員を入れる為には若い年層の現会員にお願いすることが効果的と思う。

委員会の構成において相関連する委員会は併合した方が会員減少していることから委員の配置がしやすい一昨年度 R 財団と米山奨学が一委員会になっていたが本年度は各分離した委員会構成になった。

I. G. M で出席会員より出た意見要望は有用なものは極力クラブ運営に反映させるよう理事会で取り上げるようにするとよい。

理事会報告文書の中で内容及び経過が一見不明な場合がある場合に幹事等で補足説明を願うことにしたい。

委員会報告 つづき

3. その他全般について つづき

伊原国際奨学生の最後の顛末については修学期間を終えた場合

- ①帰国報告書を提出すること
- ②帰国のあいさつを兼ねクラブにて報告卓話をする
- ③学友会へ入会する手続きをとること

以上のことが入学当初の奨学金申請書に記載され、本人の承諾をとっている。

奨学金費用、年 23,000 ドルは地区資金より支払われたが元は各クラブ会員の年次寄付金より充てられているものである。国際留学生として入学できたことは、財団関係機関の労苦と必要な学資金を受けられたからこそ実現できたものである。このことを考えずに怠慢にすごしていることは、人の道に外れていると云わざるを得ない。早急に本人の連絡先若しくは実家へ電話を入れて本人に究明すべきである。

I. G. M の会合を通じて特に強調された意見として付け加えさせていただく。

次回例会のご案内
第 1335 回 1 月 6 日 (水)
慶祝行事・新年互例会
担当 会長・幹事・SAA

会報・広報委員会 片桐順一郎